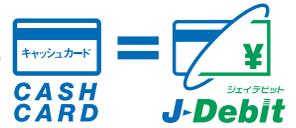


キャッシュカードでも
払えるんです。



J-D Lounge

J-Debit 会報誌 (季刊)

2009 夏 (季刊誌 1・4・7・10月発行)

J-D Lounge は会員の皆様と協議会を結ぶ会報誌として、年4回の発刊を予定しています。

J-Debitについて自由に語っていただくラウンジのような情報誌を目指します。

vol.14

INTERVIEW

特集：「私とカード社会」

どうしても買いたい本をみつけた時、銀行を探して歩くのは時間の無駄。こういう時 J-Debit を使えたら、便利だね。

書家 北川 修久



クレジットカードなどをたくさん持っている、
落としそうで嫌なんだ。

落とすといろいろ面倒だから。

毎日書道展などで数々の受賞歴をもつ北川修久氏。東京芸大などで教鞭をとる傍ら、海外で「書」の公開講座を開いたり、文字を立体造形として表現した「立体象書」を発表するなど、活動の幅を広げています。クレジットカードを持たないという北川氏に、J-Debitの良さなどについて、お話をうかがいました。

〈プロフィール〉 北川修久さん

1951年、高知県生まれ。大東文化大学文学部卒業。1970年手島右卿師事。1983年と1985年に毎日賞受賞(毎日書道展)、1993年第1回会員特別賞(独立書展)、1997年会員賞受賞(毎日書道展)。2005年から「立体象書」の創作活動を開始。「書」及び「立体象書」の個展などを度々開催する。現在、高知大学教育学部教授、東京芸術大学美術学部講師、毎日書道展審査会員

「面白いな」って思うことで、人は一歩踏み出す J-Debit を使うことも、同じだと思うんだ。

キャッシュカード2枚があれば、
日常生活に困らない。

日本では「書」というとお習字のイメージがあるけれど、海外ではカリグラフィとして、結構人気があるんですよ。一般的にカリグラフィとは、文字を美しく見せる手法のことで、当然、西洋ではペンを使う。



これに対して筆で描く「書」は、単色だけど淡墨や濃墨があって、線も繊細だったり大胆だったり「リズムがあって面白い」と感じてくれるようですね。

「墨のよいところは、書いたものが2千年間以上残ることです。ですから、皆さんの服が墨で汚れたら、あと2千年は落ちないので気をつけてください」

なんて話をすると、結構受けますよ。

公開講座の期間は約1週間。通訳も交通も日本で手配してから出かけたので、現地でお金を使うことはあまりありませんでした。

実をいうと、クレジットカードは持っていないんだ。必要を感じなかった…というべきかな。以前、スタンフォード大学で「書」の公開講座をするため、サンフランシスコのホテルに泊まったことがあるのだけど、いざホテル代を精算しようとしたら現金を出したのは私だけ。仲間はみんなカード。

「なんだ北川さん、クレジットカードもってないの。現金なんて面倒臭いなあ」といわれたことがあってね。この時「そうか海外で

はクレジットカードが便利なんだな、機会があったら作ろう」と思ったけど、それ以来ぜんぜん「機会」がなくて作らずじまい。

大手都市銀行と地方銀行と、キャッシュカードは2枚いつも持ち歩いています。この2枚があれば、日常生活には十分。いざとなったらJ-Debitも使えるしね。

全国どこの古本屋さんでも、
J-Debit を使えたらいいのにね。

クレジットカードを持たないもう一つの理由が、落としそうで嫌だからです。落とすと面倒でしょ。財布も一度落としたことがあって、それからは鞆=財布と思うことにしました。お財布も、カードも、パスポートも、全部いつもの鞆にしまって持ち歩いていて、使ったらすぐ鞆に戻す。これだけ大きなものだから、落としたりなくしたりしたら、自分ですぐ気づくからね。

いつもは落として困るほど現金は持ち歩いてはいないけど、私がお金を使う機会といえば、墨や筆など書の道具を購入する時と、篆刻(てんこく)の古書を購入する時くらいかな。「これは!」という本をみつけたら本屋に取っておいてもらって、あわてて銀行に行き現金をおろしてくる、ということが何度もありました。一番高価な本は40万円ほどの値段でしたね。こういう買い物には、J-Debitが便利。

ところがね、古本屋さんでJ-Debitを使えるところがなかなかないんだ。東京なら、銀行がそこいら中にあるので現金をおろすこともすぐできるけど、地方都市で本を見つけた場合、銀行を探すだけでも一苦勞。時間の無駄だけど、現金にはいいところもある。

「今これだけ持ってるから、現金で払うから」って、お金を見せると値引いてくれるでしょ。「こっちの本も足してくれないかなあ」なんて無理もいえる。目に見えるものの説得力っていうのがあります。

「J-Debitは現金と同じ」という感覚をお店の人がもってくれたら、使う側も使いやすくなるだろうね。

「J-Debitで払うから、少しまけてよ」って言えるようになると、いいな。

とができる。

**使う楽しさ・面白さをPRしていくことも、
J-Debitの普及には大切。**

「書」というのは、紙に墨で文字を書く。つまり平面作品です。でも、たとえば横に引いた線から次の縦線に行く時、最初の横線の最後がまるで空中に行くような感じで筆力が伝わってくる場合があります。逆に、地中深く潜るように次の線につ



ながっていくこともある。

こういうのを「筆意」というのだけど、筆の流れというのは、文字を書いている間ずっと連続しています。手の動き、筆に込めた意志の流れは、けっして二次元ではなく、紙の上・下ですずっと続く三次元。

「それなら、筆意をそのまま作品として表現したらどうなるのか」ある時閃いて、どうしても形にしたいくなりました。

それが鉄で作上げた書の立体作品「立体象書」です。

鉄で三次元の「書」を書こうと思ったまではいいけれど、自分でバーナーを使って溶接をすることはできないから、針金で原寸大の模型を造り「こういうものを創りたいのだけど…」と、あちこち訪ね歩きました。

どこにいても「うちではできません」と断られ、やっとある鉄工所の所長さんが「面白そうだ」って引き受けてくれたんです。この所長さんのように新しい物事を「面白い」ってとらえる感覚、すごく大切だと思うんだよね。面白いて思うことで、人は前に進んでいくことができるのだから。

小学校で書道を習うと、半紙の上に書いた先生の手本をなぞって、それでおしまいでしょ。面白いはずがない。

「書」に不可欠なリズムやバランスを習うこともないし、自分の気持ちをどう込めて筆を動かすかも教えてくれないのだから。書く面白さがわかれば、自分でもっと書いてみたくなるはずなんだ。

J-Debitも同じでしょう。キャッシュカードのこういう使い方も面白くなって思った人は使ってみたくなる。機能や利便性ばかり強調するのではなく、楽しさ面白さの部分でPRしていくことも、J-Debitの普及には重要かもしれないね。

**クレジットカードの支払いリズムが、
自分の生活には合っていない。**

同じ立体でも、財布の立体は困るね。小銭でお財布がどんどんふくらんでいくのは…。私はクレジットカードをもっていないから、海外では現金払い。現地に着いたらその国の通貨に両替するのだけど、食事や買い物するたびに現地の細かい通貨がわからないからお札で払う。すると毎回お釣りをもらって小銭が増えていく。

財布がばんばんっていうのは邪魔だし、安全じゃない。J-Debitが海外でも使えたらいいのに。

墨や硯を買いに中国へ出かけることがあるのだけれど、J-Debitは外貨両替もできるらしいので、今度行く際は使ってみたい。

サンフランシスコの時もそうだったように、日本に帰ってきたら「どうしてもクレジットカードでなければいけない」っていう理由がないんだね。現金とキャッシュカードさえあれば不自由しない。

「書」で大事なことはバランスとリズムという話をしたけれど、クレジットカードで買い物をすると、支払いが忘れた頃にやってくるでしょ。そういう支払いのバランスとリズムが、私の生活に合っていないのかも。その点、J-Debitはいいシステムだと思うね。

株式会社 新宿高野

TAKANO
SUPREME TASTE
SINCE 1885

外商部が使えるような携帯端末を提供して

いただければ、J-Debitは急速に普及すると思います。

創業明治18年(1885年)、124年の歴史をもつ新宿高野は高級果物とスイーツの名店として知らない人のいない存在です。同社では大正15年にフルーツパーラーを開始、戦後まもなくフルーツの直輸入をはじめなど、「お客様に安心しておいしいものを召し上がっていただく」という姿勢を貫いてきました。現在は本店の他に、全国の百貨店や駅ビルなど30カ所に店舗を展開しています。「お客様第一主義の実践」を基本理念としている同社が、J-Debitをどのように活用しようとしているのか、経理部・青木部長、商品部・蚊爪部長にお話をうかがいました。



左：蚊爪 喜三男氏 / 右：青木 俊英氏

● 若いお客様が、パーソナルギフト購入の際に利用
「個々の店舗については、百貨店さんなどの決済システムに従っているためJ-Debit利用率などは残念ながら把握していません。本店にJ-Debitを導入したのは、このシステムが開始された当初頃からのことで、B1階フルーツギフト、B2階フード&ギフト、5Fフルーツパーラー&フルーツバーの各売場に1つつつ端末を用意しています。利用価格帯は1,000円～5,000円、パーソナルギフトなどをお買い求めになる際にご利用いただいているようです。若い方のご利用が多いこと、1度使われるとリピーターとなることなどが主な傾向です。」(青木部長)



「お店のイメージを大切にしているので、どこのカードが使えますといった情報をレジ前に貼ることはしていません。そのためJ-Debitが使えることを知らないお客様も多いのではないのでしょうか。使えない可能性があるカード

を出す・出さないという一瞬のとまどいがあると、利用率はなかなか上がらないと思います。J-Debitの認知度をもっと高くなり、どこのお店でも使えるように環境を整えることが重要だと思います」(蚊爪部長)

● 携帯型端末があればギフトシーズンなどとても便利。
「最近のお客様を見ていると、支払いにどのカードを選ぶかということをかかなり考えながら使っていらっしゃいますね。ポイントが貯まるというように、お客様に利用のメリットをいかに与えるかということがJ-Debitの普及には不可欠だと思います。カードを1枚しか持っていないというお客様は、今の時代ほとんどいません。たくさんあるカードの中から選ぶ際、真っ先にJ-Debitに手が伸びる。そのような工夫、特典が必要だと思います」(蚊爪部長)
「手数料が安いこと、入金が早いことなど、J-Debitは私たちにとってメリットの多い決済システムです。店頭でのご利用もさることながら、ギフトシーズンなど外商部は外回りをしながら大勢のお客様からご予約をいただいています。このような時J-Debitが使えればとても便利です。その場でご入金いただけるし、現金を持ち歩かないのでセキュリティ上も安心、事務処理も楽。手軽にどこへでも持ち運べる端末を、外商部が活発な企業に提供していただけたら、J-Debitは急速に普及するのではないのでしょうか」(青木部長)

事務局からのお知らせ

● 加盟店検索ページのリニューアルと加盟店情報 WEB 申請システムの提供について ～ 一般利用者向けの加盟店掲載情報の充実と利用促進を目指して ～

事務局では昨年より、加盟店におけるJ-Debitの利用促進を支援する目的から、一般利用者を対象とした協議会ホームページの「加盟店検索サービス」の改善、拡充に向けた取組みを進めてまいりました。

この度、利用者の視点に立ってより使い易いよう抜本的に改善した新しい加盟店検索サービスの仕組みを本年3月末より提供開始いたしました。

については、加盟店掲載情報の最新データへの更新と内容充実のため、加盟店様及び情報処理センター様のご協力をお願いいたします。

1. 加盟店検索の掲載データ項目の充実

利用者にとって検索し易く、より有益な店舗情報が得られるよう、加盟店情報データベース及び検索機能の新規開発により以下の3点を改善いたしました。

- 1 『業種』が最大3つまで選択して登録できるようになり、店舗の取扱い商品・サービスの内容に即して掲載できるようになりました。
- 2 『営業日/営業時間』の欄を新設し、来店する利用者の利便性を高められるようにしました。
- 3 『店舗PR』の欄を新設し、店舗の特徴、キャッチコピーや独自のキャンペーン情報などが自由に随時掲載できるようになりました。

2. 業種別の加盟店ご紹介ページの掲載

加盟店検索では掲載できない業種または検索が困難な業種について、認知向上と利用促進を図るため、業種別の加盟店ご紹介ページを設けました。現在、外貨両替と通販代引の2つを掲載中ですが、今後、順次拡大していく予定です。

3. 加盟店情報WEB申請システムの提供

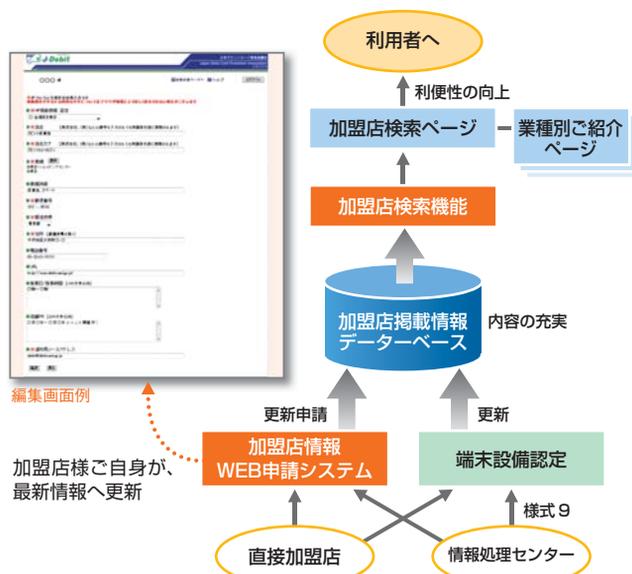
上記1. に対応して、店舗の掲載データを加盟店様自身がオンラインで迅速かつ簡便に更新できるよう、『加盟店情報WEB申請システム』を本年5月より提

供開始いたしました。

従来から、加盟店検索の掲載情報は、端末設備認定申請の様式9「端末設置場所一覧」の情報に基づき、事務局が一部データを抽出し掲載しておりますが、店舗の営業日/営業時間及び特徴のように利用者にとって有益な情報は、含まれておりませんでした。新システムでは、利用者への利便性・訴求力向上のため、従来の掲載項目に加え1.の新設項目を含め、加盟店様ご自身が更新できるようにいたしました。

特に、新設の店舗PR欄は、各店舗の特徴・取扱い商品等や独自のイベント、キャンペーンなど自由に掲載できる広告欄として是非ともご利用いただきますようお願いいたします。(詳細は当ホームページの会員向けページをご覧ください)

加盟店掲載情報をいかに最新データに更新すると同時に内容の充実を図り、利用者向けに正確かつ訴求力のある情報提供ができるかが、加盟店検索ページの重要な鍵となっておりますため、加盟店様及び情報処理センター様のご協力を是非ともお願いいたします。



編集画面例

加盟店様ご自身が、最新情報へ更新

会員の皆様からの J-Debit に関するご質問や本誌に掲載して欲しい内容等、ご意見をお待ちしています。電話、FAX、メールなどでお気軽にお寄せください。

キャッシュカードでも
払えるんです。



日本デビットカード推進協議会 事務局

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-2 NTT DATA 大手町ビル 10F

TEL: 03-3243-0781

URL <http://www.debitcard.gr.jp/>

メールアドレス: info@debitcard.gr.jp

月～金 9:30～18:00 (振替休日・12月29日～1月3日は除く)